

## 原点に戻って共に考えよう！

牧野 直子

### 吹田で子育て仲間と出会う

私は箕面に来る前に吹田の万博会場の近くのマンションに住んでいました。当時、二人の子どもたちは幼児で、子育てサークルに参加し活動していました。

その頃、有吉佐和子の「複合汚染」を読み、マンションの掲示板に「安全な牛乳の共同購入」の呼びかけをしました。そこで多くの子育て仲間に出会いました。

そして共同購入グループのよびかけで、水俣に幼い子どもたちと共に行きました。水俣では、漁師さんや水俣病患者さんのおうちにも伺いました。今でもそのときのことは深く記憶に残っています。とてもショックでした。今は中年となった我が子たちも当時のことは覚えているようです。

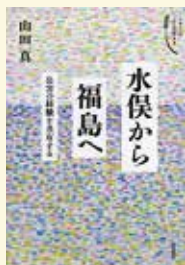
### 水俣から学ぶ

昨年9月に久しぶりに参加した共同購入グループの総会で映画「MINAMATA」を観て、アイリーン・スミスさんのお話を聴きました。ユージン・スミスさんとアイリーンさん夫妻は水俣病患者の写真を撮り、貴重な記録を残されました。ユージンさんはすでに亡くなりましたが、アイリーンさんは今も京都で活動されています。

そして昨年12月には京都の「みやこめっせ」で「水俣・京都展」が開催されました。会場には一人の水俣病患者が生涯飲んだ薬のカプセルがうず高く積まれており、また水俣病と認定されなかった方が沢山おられることをあらためて知りました。

そこで私は1冊の本を買いました。

「水俣から福島へ」という公害の体験を共有することからこの国の未来を予告する書籍です。「結文庫」の一冊に加えましたので、是非お読みください。



### 大阪・関西万博の裏で何が起きているか？

70年万博のとき、私は高度成長期の日本で起こっている水俣の現実を知りませんでした。

日本窒素の起こした問題は今もまだ解決されていません。裁判も続いています。

今年夢洲で開催される大阪・関西万博、そこにも色々問題がありそうです。もともと夢洲はごみの埋め立て地であり、メタンガスが発生し、事故が起きています。また費用も予想外に多くかかり、そんな費用がかかるなら、能登半島地震の方に回すべきだという声が沢山集まっています。しかし大阪・関西万博はそんな中で強行されようとしています。経済成長と公害の現実から、私たちは今こそ学ばなくてはなりません。次世代につけを残さないために。

### 戦争と地球変動の中で

世界ではウクライナ侵攻やイスラエルとパレスチナの戦いなどの戦争がまだ今年も続いています。そして地震や豪雨などの災害も増えています。多くの食品ロスを出す一方でその日の食べ物にも困っている人が沢山います。こんな社会にしたのは一体どれか？戦後の団塊の世代の一人としてとても責任を感じます。

すすむ少子高齢化と気候変動、そして地球資源の奪い合い、これからいったい何がおこるのかとても不安です。そんな中で「結みのお」としてできることを会員みなさんと一緒に語り合い、考えたいと思います。

#### 第16回「結みのお」総会

日時：2月22日(土) 13:30~15:30

場所：中小会館「四季彩の家」大会議室

1部：総会

2部：カフェタイム&座談会

皆様のご参加心よりお待ちしております。

